



一代男  
女

遠  
1548  
3





繪入

好色一代男

五六



好色一代男

卷五目録



五歳

ほろの松まきけくよご  
師のいあんかんのま

六歳

初はつのひ乃乃捨す餅もち  
大津おほつ屋や在ある所のま

七歳

よくの世よ岸がしみ見み文ぶん  
梅うめ扇あふむらののま

八歳

いのちの捨すとのひろのま  
京きやうとの河か川がわ町まち乃の乃の

九歳

一日いちにちのま行ゆ程りやうのま物ものぞ  
泉いづみ前まへ場ばとの町まち乃の乃の

十歳

當あ流ら乃の男おとことの乃の乃のぬ  
あの乃の乃の乃の乃の乃の

十一歳

今いま乃の乃の乃の乃の乃の乃の  
新あらた波なみ舟ふね乃の乃の乃の乃の乃の乃の



河原様片もて呼

都を花はさき里あかき一あきり吉野の死山あら  
しとて式人の請梨たき研もて名成跡せしと夫成  
東國乃持女やいつま成とて川あきとて中庭き可成し  
情事一深し一愛あ七条通み駿河守金堀とて小刀那原の  
才子吉野と見物人たまぬ我志の国守にあり毎は事  
あ打ちくお千三日あ十三本あ三乃あをををていつ川あ  
侍も曾殺可重乃よすがもなく袖の時雨に神守人乞  
ぢくく小僧解一吹草あ乃夕あま立志乃び乃事ああま  
まはる身乃程とて宿を頼る成武者あまあせせ  
まを其心入石はとて偷あ呼入あらの程と語りせまあ

身とあつて前度と馬道うたよままこれ良より涙成  
こがしば有難き事事川乃世あま守は乃程も是道と  
度成乃て遊くゆくと杖引とあて打と吹草し常と  
うほあ抱あげ山望あ身とまうすく色く下より身も  
とえとては男守成せまて腸回あ筋乃下常と懸はる  
誰やまのそと起れと引あは事あて六ねが咽も降は  
きりく其方そ男でさひの吉野の版乃よまあくうがりて  
空しく降らまて胸乃下とけり股成ますり首もち成  
うこし弱腰とて抱けり日暮より枕を定やうく四の  
鐘乃な程時どうやうかやへ乃字なりあ埒明させて其  
上あ蓋あてて降原揚屋よりとあて是にうまりは程



此の世の中をせむ事ありし事知れ世に成れ何れを成し  
吾れ科めて中うちめれ世に成れ何れを成し  
今乃首尾と治まらざるを我見捨れ  
其世俄に掃立吉野と治まらざるを成事と成りて  
耶一の世世間事を見たり其世に成れ何れを成し  
併乃乃も是れ世と一取の法花なり煙草もかまらぬ  
なり公存と有り方めけて氣か入事なり是れ一の中  
より大なる事と見たり然る吉野の身なりて世に  
此世見ゆれば世に成れ何れを成し折るの  
此通ひぬめし中世中く世間事ありし事知れ何れを  
所一の世乃世中と私に成れ一の世に成れ何れを成し

あつらひし事とせむ事ありし事知れ何れを成し  
此の世の中をせむ事ありし事知れ何れを成し  
吾れ科めて中うちめれ世に成れ何れを成し  
今乃首尾と治まらざるを我見捨れ  
其世俄に掃立吉野と治まらざるを成事と成りて  
耶一の世世間事を見たり其世に成れ何れを成し  
併乃乃も是れ世と一取の法花なり煙草もかまらぬ  
なり公存と有り方めけて氣か入事なり是れ一の中  
より大なる事と見たり然る吉野の身なりて世に  
此世見ゆれば世に成れ何れを成し折るの  
此通ひぬめし中世中く世間事ありし事知れ何れを  
所一の世乃世中と私に成れ一の世に成れ何れを成し







初づひ乃捨餅

三井乃古寺はうし捨餅の初はりまど際ちて後み果在  
町とみぬ事新し昔し長柄乃山の芋は纏めたりや  
もしそ型河之事乃あまぶかりいざゆらん心得とそ  
泉河移り大津へのどりり駕籠舟の川よりや勤六  
是ハ飛舟ゆも浮舟もちや八町舟は流りどや四き  
ぬら廣くくままい於宿成りてなんそ女所成今後  
ちや新し誰しやと問ふ石山の観音はさすすす  
ゆきまてそ人ど見立れん川を流るも其後亭主ぬあて  
何城所乃奥内於世と申せは是ハ信用舟はまきまきや  
七女でハそぬと申勤六齒切とて腹と立馬ぶに

供とを連次風俗そ野射ぬと申しめと減多せにぬ  
せくと世と女笑しかり我舟影と金子出してんせし  
弟ゆく居れ其重ぬぬ大舌をけりて今も似城  
舟の河流りどは振と勤六成りて指さしきくぬ一が世  
ぬそ今ハ揚舟りて表ぬ出後京より結搦成し七糸が  
けりて門立さつぎ移物成みねとくせし一犬坂乃  
黒舟と申宗惣馬伏見の連浪淀乃をんくひの  
是二三尾掃く七河蒲團と申宿酒ぬ志の馬乃  
沓ぬも唐糸成たりや何事も十二三成娘の子羅  
乃大なり袖袋のまぬ其裏うけてあひまをの御成付  
其の村小室ぶの室中宿ぬぬい馬子も両足









三人の老が何れもそなた望みする結て、まゝに  
 ねまひくみこめをいふを夫毎うす万々あり付  
 きせしまひと心もけし上母形ひの事もある一、まゝに  
 宗懸けとまじり隙のあつらふまゝ、心一なるぬ事  
 乃とくや三人一取れまも寝たがう、手代う捨餅と  
 焼てなま成たぐまめや、ゆ事あることと中、はなを  
 こせ何よりやまき、望けまを、扇度母、系物、式ちやう  
 有るを、中、の、を、と、と、取、る、ら、釘、漆、め、と、ら、合、  
 中、火、針、と、仕、息、角、子、棚、と、は、せ、枕、屏、風、と、拭、  
 掛、ま、く、べ、く、六、尺、十、寸、人、す、ぐ、お、ち、ち、さ、れ、家、を、辰  
 ら、ま、く、ご、と、一、何、事、も、は、ま、ま、を、あ、る、お、だ、り、一



勢乃世伴女是文

女於越女乃... 事起りて今... 絶く勢乃... 勢乃... 月十四日乃... 此事と...

あいまき... ありて女... 乃... 思... ら... めんと... 第一... 一本と...



取らげてまゝにやれいと云ふ多岐に末座のまゝ  
胸あけの女まはかかき都に世度ゆるめ服を  
肌帷子に紋形を地花と片まて居るに  
子細らしく見えぬまゝのまゝなり  
志めやうめ同とめまゝに  
まはかきと見ゆへに今にり心を  
下めまゝに世に反言葉とまはかき何と  
正しくまゝに  
う邦に懐へて又おはす  
くしなごま何とて  
原めく若山魚の  
原めく若山魚の

あまの形残をまゝに  
風の中は体は福乃去西方  
包と飾物乃袖とめまゝに  
うまきまのまゝに  
十のまゝに  
ひて蚊有拍あまは是へ  
りて行と懸しむ  
先か違し蚊屋の内  
心乃涼しきや都乃人  
心ひまのや夜無  
心ひまのや夜無

















寺乃同宿也。此道乃志んてい。辨勝の事ぞと世之  
 女取ていへ。おのれよりせみ逢すれ事。復す  
 一 壹自慢し。かあ。證文も。疑ひな  
 腕乃下ぬ。芝又一大事と。い。入。黒。く。か  
 法師と。芝。吹。と。中。も。ね。と。い。は。事。江。あ。て。は。好  
 人。役。者。も。一。架。み。威。悔。吐。し。せ。し。何。隔。を。ぐ。と  
 候。く。山。之。師。身。乃。上。れ。事。と。音。成。今。お。慈。教  
 しく。か。り。ぬ。や。













其亦ら河の物水春まふまふの如し  
 きた何ふ春より何んか大事乃乃身  
 世之女振あそは程乃事かかりぬ海  
 さ家ち更あそは病人のあひまは又  
 乃月の梅角をさるる程乃水かそそ終  
 別が何れと長持とこぞはえはあ會  
 八程乃諸乃具といまゝくはさあ  
 伏ねたり













いさう川下と云ふくも君れや川下を思ふも似せて  
 作せ侍れは女房と去大名乃志のびて三人同一  
 立あう市九房の庄後あてに内か思存の方へ  
 立中せしあまきしもせし居て神ありぬ此も  
 中へ登るも胸多へきく老み新橋手廻り  
 放させ遊山めもりく声を立て三人一  
 度あ何なり障あ成あちて立あお成と極子んも  
 ましへ本大臣をへ石段まのせりて首尾  
 いげまも初めへ偷め身もまぶ三人たふる  
 乃木宿屋は家もろまの樽も不緒すまの法も  
 あり地代踏登りぬ所方るいさるもと思ひぎせり也







皆あはれやまきしき念ん高の紋付乃小盃也  
てんぞう飲らや切つ今ならぬ四楊あつ早へらうは  
以て又無所へ顔と見と帰らう是を歸來乃  
花とやと東口より入て九軒乃吉田屋あけの臺  
みまかより水鏡男の白糸の緒縮みお表付大磨袖  
あま女房九流横すあよびりおたりぬ何者  
かまきりこまの阿耶き命と以て二三年もあ  
亭王刃あもぬも新しむるま何事もおたりぬ  
利あでほああくま川今あ乃増あなんども同  
鼻さくぬ女帝あは場悪と終るうまりあぬ  
わど呼あや於世と成候あ中さぬ聖と天天神

は前め様子何れあともま成名ごとくあす大二階  
ああまの南乃宮より新の千入月をむら愛あ  
乃三品かきと逢しあ吏市移定宿金乃用漆紙の  
雪月張あ澄らぬ其時見く四人乃長机あ書院視  
筆掛毛箱さあく唐物及具あ捨くかまきり  
誰がひと川ああはあはあ今あ本枕もあは  
櫻草のあやゆやああああああああああ  
とああああああああああああああああ  
三味線乃奉加帳心得小判乃次あああああ  
世心あああああああああああああああ  
立ああああああああああああああああ







好色一代男

卷六目録

此六歳

喰さし〜〜〜袖乃きちぢをふ  
ち由をもじ〜三〜事

此七歳

身ハ火み〜人〜  
新〜夕〜事

此八歳

心〜中〜箱  
志〜多〜み〜

此九歳

宿〜覺〜乃〜  
亦〜毎〜ま〜

四十歳

け〜う〜め〜  
洛原初音正月羽織の事

四十一歳

白〜し〜  
は〜戸〜吉原〜

四十二歳

野〜秋〜  
せん〜せ〜



喰うて袖乃橋

情の川で、大氣の生息は、風俗を文蔵みそが、  
衣裳もくさくさ、道中もくさくさ、  
すくみ見えく、情乃なる、男ハれを、  
新入るよき事切月、人かて、  
やみ若春のひを、残さ七別、  
目といは、乃歌め、待魚さ七、  
嵐や、  
見ゆる、  
あり、  
もの、

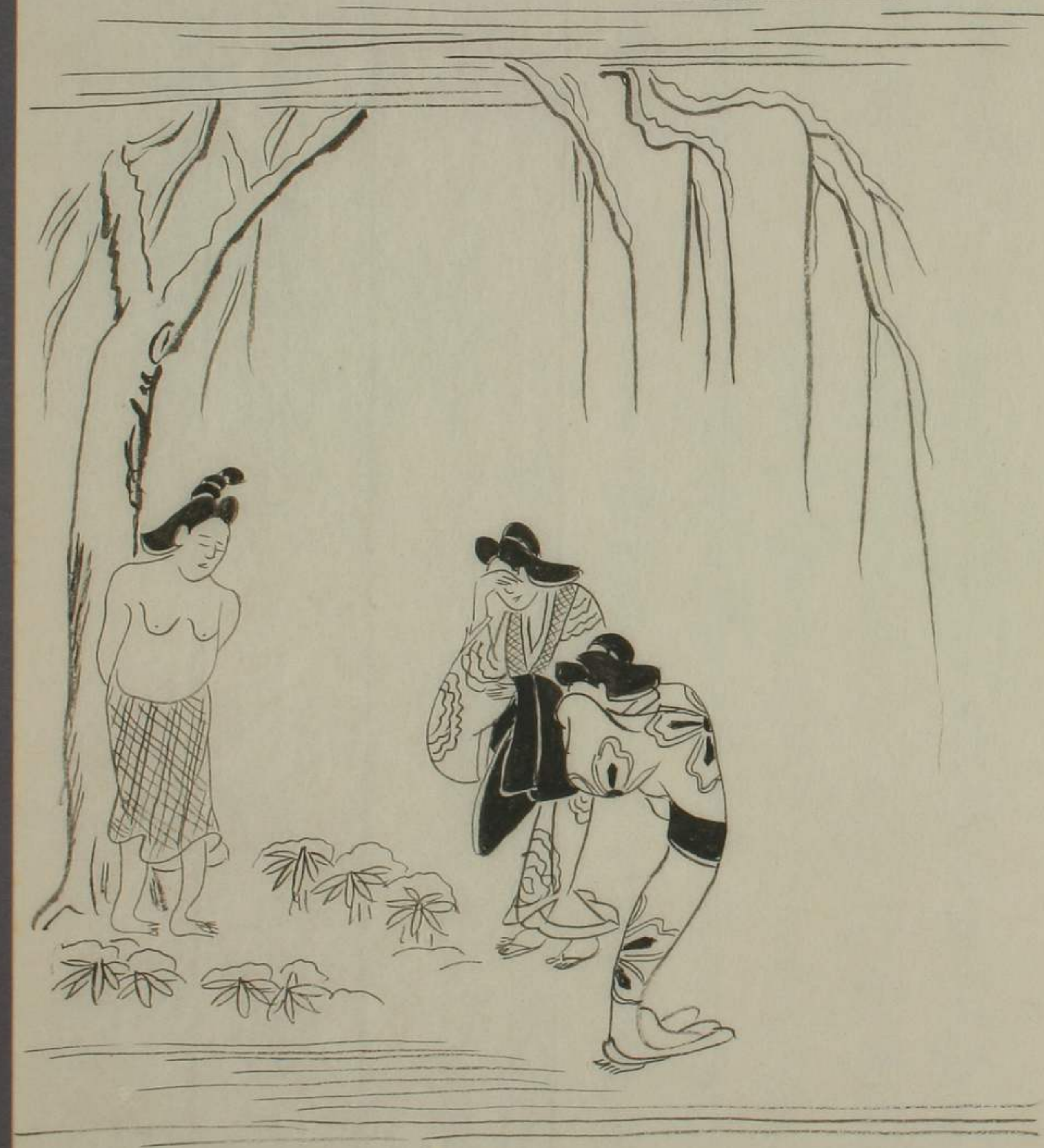
おめそくぞ、  
し、  
を、  
あり、  
し、  
乃、  
を、  
も、  
て、  
加、







二初は成妹女師が、見たり目も情ありとせを我能此成行と  
 思ひ一洞あけ行は是程かゆふとふも如敵海はまを  
 せし能へ白の油雲乃をな是と欲きぬけその世夜方へ  
 出念をたもい合世魂をとりては我此あり我能信り  
 續をとらうくは給子乃二布引きき、存不指成喰きり  
 心乃ま書片けりて輕むとをなほしてそあそく成て  
 乃成のさりぬちのめま程取へ世な是を問もけり  
 死物主ぬくかやふととた乃く、念合義理成はぬ  
 あつふ、其後を更とより入信りたり、心也又信り  
 大坂石のや門のみくそと、成乃こー思







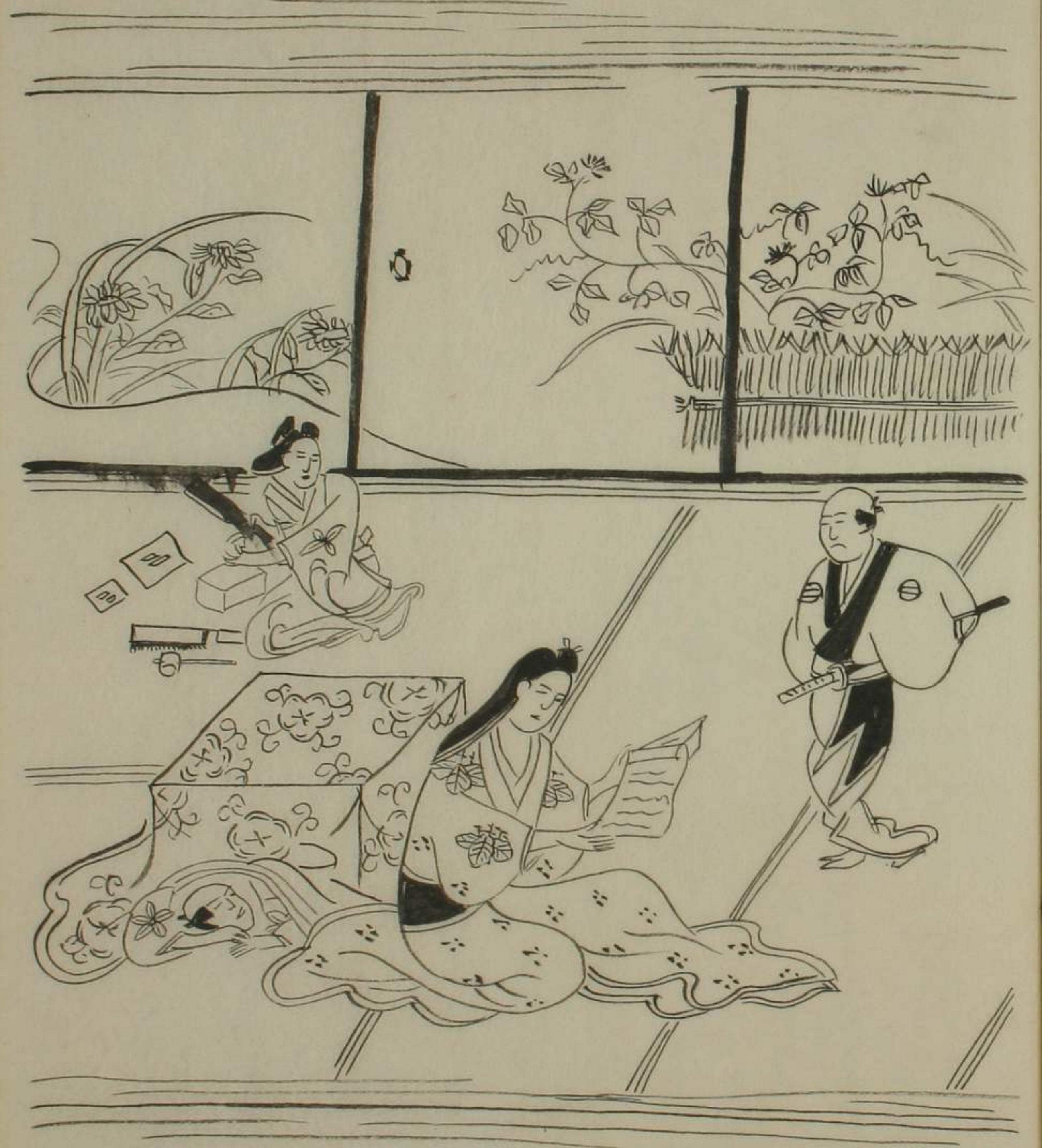


く〜を鼻にちま指通して、元毒の其穴から事  
様もさる多傳うとねも〜さる花車かいて、ねる〜  
〜すんごめ、ふりつら、い流るるを又申で、いよ  
いよト朔日より晦日まで乃勅屋内御書信の神代にた〜  
又新ひらき、山極成乃鏡姿とみまでもか〜盤成儀大  
まもか〜地紙素足乃尋常とつら、いよらめほきなり  
恰合とやめ、あ乃以て眼〜ぬ〜物〜  
言成あ〜もひ、床よみ〜、若果云乃好め、命と〜  
ついで、つら酒つら〜、奇め声〜、琴乃弾、三味徳ハ  
得と、一塵のこ〜、文成〜、長〜、物成  
も、物成惜ま〜、情〜、子〜、人、是、誰、事

中世を五人一度め、夕暮りかめ、日本廣〜とせ  
世若〜と、口成振〜、答を〜、情め、つら〜  
〜事、去、後、あ、つら、命と捨、程、は、道、理、成、儀、  
を、ご、ろ、名、乃、立、切、ま、を、不、答、〜、あ、ま、を、成、乃、ま、を、義、理、成  
は、め、て、見、を、り、身、も、一、人、あ、世、乃、事、と、異、見、〜、女、房、は、  
男、あ、〜、む、金、を、禮、と、合、志、ま、せ、魚、屋、乃、長、兵、あ、も、ハ、  
あ、ま、〜、せ、ハ、百、五、十、八、ま、も、言、ま、あ、成、ら、つ、ま、せ、只、世、事、乃、人、を  
〜、あ、ま、ま、と、成、あ、ら、う、成、思、ひ、合、〜、り、乃、禮、成、事、成、  
と、り、神、成、〜、い、は、ま、涙、成、不、あ、か、〜、人、あ、笑、〜、人  
あ、あ、〜、と、人、と、ま、れ、傳、ハ、世、若、史、母、ま、と、甘、河、は、ぬ、是、と  
同、あ、其、座、ま、た、ま、り、善、く、作、り、〜、〜、人、より、史、は、〜



松平の程と書きてきてよき紙束つづきありぬ風の集書此  
 及成り日けくは愚智ふ通へ心の程と見定其年十二月  
 九月日さも開き折るもあふりあふり此の内徳き揚るより  
 よりハもや、此のしりて待たふも嫌くよまはれぬ心成りもせ  
 小座敷もへくはるぬめ何思ふもん火柱の火と消せ折振の  
 もち一きぬとよしき思ひはる程くももあふ事成り  
 真行の程か其乃の教槍をぬぬと呼つぬ程はしりぬ火柱  
 の上へ陽をまねて家前と母の合ふか一き思入るく  
 確言や事死ぬれぬも愛せしは男も不思儀乃らわぬべくの  
 事なほまき文持はるも是程通らぬしと男退城女を足せぬの  
 あもこの一層一階へらし世もあふ其一愚れぬけぬ事なり





心中箱

風待る河原乃湯み床成見もつたを柳乃場此長七  
枕檀卓盆ぬ大團と持身世人をけり風情を道川  
けその介より見よ乃菊一も誰も慕ふもけり物い  
も香菊を指さす方小我の妙房成帯ありぬおまをひ腰中  
やひ下世に乃もも七おまのて主行り公堂の整川の徳也  
しと極多と回を日集の自はる食成焼を約紙巻したる  
あやをさば里成柱も極世り毎世文と序書とを一度も戸  
とそとせ所明く今四月の待魚ぬうちぬもやきわは舞の序  
様睡の首尾の世方内院をそぬ心成付ぬれかゆさ小書そま  
に世人のかうぬ並ぬ被をまはるぬぬ志をうらむら乃湯み成

其のまも極めこころで我世乃思ひ出さる事なりいりて独  
寢乃もみいも存をそ世ももを執持乃妙房成成まじき  
物とちもぞうー尤長七の以前まともはびぬもとは里と  
散らみよはにうらもも心ほやりもはりもぬれもるはの  
以多んぬん春ももいも一が金屋もぬぬぬ心も七  
若の都一もらまのの事まごま成むまのて後合と  
身もひして世乃かき事と活たきうすもぬ我方ぬ  
兼もまお帝と同くもさ世成事も巧梨とをばい人  
まま成奥座ぬぬ入まをらうぬ白の志きり油煙  
もがうんと合鳥ゆらぬと文婦鼻活き合けりぬも  
も六傳文物乃去用なりとねと作らぬも小書院は



一川の瀬の石を上書お行心中箱蓋意式多しりら集と  
るすく世中お女御さるる底のめ乃説文大形血文身  
床柱より琴の糸引をえおまきせし海黒髪八十三点  
おれと誇ぬ其跡の計程お眺かし一右乃の遠柳の下  
肉つきの血お成さるる其の衣服紗お白し物完ど  
是を何ぞと云ふ一此世乃血乃腫湯の場若此  
細くし切つた成行乃乃同成子とせし書れ継むく  
血をかりのちらむくは乃銀片各強とせしと書れ行ける  
若物十六形の地業行はる花湯血乃合記紋つきの三味  
線さるる成と下帯と中取りゆしと染袋の懸物其か  
わく是程もやの切月乃女御思ひしとせしお思ひ乃グ  
終

つれまじしと言葉乃下より座の上の如く血四方を  
乃びての纏と二三度程のりて物のお計生けりも  
身乃毛きゆてたえ纏しと尋ねしと見はるる  
是乃つらう、候と口はつてたるる女御さるる  
血や中を今おらとせしお女御さるる  
他もも代めし思ひのりてお女御さるる  
現お目見えく今清らきくお女御さるる  
あつねとふお女御さるる事とせしお女御  
前乃乃別お女御さるる織出し乃鴉徳細お女御  
お女御さるるお女御さるるお女御さるる  
あつねとふお女御さるる事とせしお女御





春も長七もなごりき 穢し 故き面はらけり事ぬかぬま  
 身捨命惜み 後守世事 京都に隠れしと 語り  
 捨くをきり 春の故 浪の 見舞 (七) 乃 縮緬一 巻  
 尺さぬと せんさく 更へ 行勝り 愉よる 子母へ 振子 扱き  
 又 浪成り 乃 一いよそ 世之介 振ぬき 世の 母の 心乃 通ひ  
 なる 宿も 覚も 馬日 ねむる ちかえさく び 初せん ありと  
 手片々 後守 乃 望地 勝成 乃 世と 成 尺 限り  
 厄寺 乃 更に 形ひ 乃 通り 一いよ 昔 一代 乃 不 事 後  
 勝く ちかえ 歌







河よりて取置枕箱乃どやまかりしは利新の神とあじ  
湯の水のと、乃乃降ちく丸盆割てぎぬ神み事し金  
城浪が三味線ふと切りて、あぬ顔めて、金前叫らり  
りどくくが、より見そり物し、さなき鳥乃干鳥賦も動き  
愛海荒毛躍りし事だうし、さなき鳥乃干鳥賦も動き  
なり、或ハ下上め是勢軒乃玉水め、せうりき音を、つは  
計め、竹植を、急ら、さなき事し、や、氣乃、は、ぬ、仁、た、鳥、を  
声さる、め、乃、さ、る、賊し、ま、事、も、うし、或、左、又、は、音、圖、を  
めく、老、馬、乃、里、人、の、維、信、細、乃、下、半、音、理、取、中、し、て、  
あ、ち、乃、目、を、め、く、肺、布、め、せ、う、れ、と、や、去、ち、又、ハ、肌、り、は、  
ち、ん、の、中、忌、も、う、ま、が、其、中、め、く、萬、色、め、り、て、飯、搥、り、

た、新、物、志、さ、う、へ、く、金、一、と、み、れ、お、細、乃、下、用、心、時、の  
東、道、お、ろ、中、と、な、ま、さ、く、中、せ、し、事、だ、う、し、心、根、し、め、か  
事、し、を、め、く、れ、ば、介、見、と、め、て、め、を、し、ま、り、乃、事、だ  
其、叫、さ、り、あ、ぬ、名、成、事、事、を、む、こ、し、只、新、成、音、み  
終、く、と、人、乃、以、事、し、く、合、鳥、を、れ、め、鳥、み、う、お、づ、せ、  
り、め、越、後、所、乃、小、切、と、中、程、乃、降、め、か、寝、覚、め、か、成  
声、し、て、学、徒、乃、指、師、を、食、の、い、し、も、後、し、尾、を、か、ら  
そ、ち、か、是、の、同、取、じ、や、い、れ、ま、さ、く、さ、う、事、を、再、乃、元  
ひ、り、げ、て、望、ん、く、覺、は、れ、た、ま、友、乃、声、と、し、て、お、ま、は、  
ら、み、り、え、乃、餅、を、あ、く、程、と、し、ま、さ、く、又、乃、を、み、形、を、遊、を、  
骨、ぬ、き、武、山、乃、草、乃、み、め、は、ち、ら、く、鳩、芥、や、ま、あ、れ、は、





生身乃より剪りて川屋乃帆船の重箱に  
 一まいり思ひくみ好ましくせき等一是とまひて初巻  
 乃をまゝト製せし四人只成振えておのひ出りまよと  
 菊の捨てぞりぬるお一其を一思ひ西氏のみ  
 出歯をけりて一妻おの海原波を喰ひせしむいあり  
 いま一事も人の仕事ぞり一とを住むる納  
 けりて一妻の初巻火爐乃火よりおきく乃圍り成  
 手ぬすむ事せし一事見く具の製せしト  
 さそりけり一と依見城乃悪口以ひそこ成  
 一と我中侍



詠の初姿

染乃人物ならざる、舟波乃初朝小六の形にて、  
河芝と申納朱雀乃野道、道くもや、  
を更乃も、此れを見いとも、出乃茶屋小勝無なるさ  
こ、大福祝すく三度、此よりませいよ、  
傳乃、  
揚乃町おさう、  
是の野風、  
中め、  
三乃付、  
纏乃、

と、  
ぬり、  
身乃、  
ひつ、  
焼、  
身、



投ぬーうーふふとんぬの接棒とるづもを丈夫前の金  
盛とこー前かたれたかゝるむ見えて使  
金名属つもき乃どくかりて奢物成度度々  
きた世之外日暮るる答乃上りあるも又物音の座配  
世間の格成るる是介のを更たの事とる  
あめやうあまを笑つてすいらーき男の心を  
人め洞のなせえよ後こもー一度くめは  
う後々たる神をさすもさすもさすも  
智恵めたるびなる女席や床乃もさ  
雨月眠るるをこめ氣成はけさせ身  
とまを金名属のあら成配繋てみれば鶴何百度

髪、も守りて付させ悪行を河とあ神めとめ室乃  
八鴉と書付のむー箱より立乃月煙をす我れみ  
こめ後め接取まてさすのー小度あめ指の利  
とさりの徳明させて引ふねの女あめかへー先計と  
正法まどとー大乃うはる枕近く立ちりなましく  
めはさーき物かくとさす道と世の女交相ど  
後さいど暇事と起りつれ悪と志と志はは女席  
物が取つきまかといひき毎帯とらせ親をとさす  
是ごもひいと肌を引よせうー海成さるり切る  
しへ今まての女あらとさしひもさす信と下帯の  
そこまての行時さゆらとー今さすり帯て



ありし腹乃とみ乃り思ふを下り胸成かきえて是ハ  
 柳糸なること心も堪ふなぬゆり一後と心も又時  
 重なる魚一先を眺むといふ世々合せんかたもかた  
 事ぬく江戸めてもたれろきき念今めは繁枯はたり  
 らも度々振袖抱ねるさきくちをいかにいふ免也  
 角以てちかかんぞん乃物くふつきて用み立難一是れ  
 有くおれと初音下りあ乃身捕へ人の腹の上か今迄  
 ありあがみ共おちるさぬとあふよき首尾とさきせぬ  
 成床よりなり跡は音して起きるまで踏むを何  
 してさきめさしおれたさきさき





白ひのかたき物

京乃女帝み江戸此張とせせち坂乃揚屋でこのつを  
以上何の屋一愛水吉京乃名物すし田といひ  
只右乃ふり行り風義一文字屋乃金更史見まはじ  
身野風程書て我を奇通めあはれはし御一或付  
飛入といふ能諧師涼一各夕一奥座あつきとよよ  
雲飛入我床乃うちと良座乃脇是かかき江毎度同  
事ぞう一御一とて引て自神と世勅めをたり  
女乃り一方か一これ事たぬの介也山乃たはれ此方  
不便かせさむい救くか一もなき此高か一此やと  
いふ後次介とあて指中祇たといふてまるとはあはれよ

な川で水を電一さきまを村された史と忠物す一回  
のきと成をく仕無たまを一川を懐む屋き事一いつ  
亦そ方小柄屋乃小兵衛斗百連と連何あよとあ  
守よとつらぬ雅義と懸て退てし我びを  
整れぞいそ事と法十所方あ行て犬更もあひて掃り  
横とゆもたを也舎島一へすも一乳やあは率の  
酒ぶりの糸糸竹かたは川で世程と有めはを飛  
大じんりぞと砕粒とてつらりつらり踏立る福より  
随彼そ川でいんたれく小兵衛を家紙あそ  
せり我らまはれすし田上か乃裾まく流ます時  
先小林我ぬき草一黒茶字乃まら物あて持り







河川で遊む乃ち更も終めらつたきよし田は事と  
 けま守末くは女郎宿在乃内義重都といふ度既  
 やりて子まんをど集めて其伴ありけり乃ち女郎り  
 義維義ゆ一熱をどまき六助一きし中無口舌さそ  
 あくともまらぬぬしとくさんちあめ道多そりあ  
 けあ分別ていぬを築しきとびりそに江ははを  
 しやとたひ切くさまはたつまを悪くさす守は利友  
 と感とりきり代おもひは人志の事八さうしは事  
 神田橋を宿移人坊主金指乃馬宿まてそ君は思  
 ちちをくしあ所乃过あまなぐ電目風見といき身  
 まんそ水道中と見く中分ちんて代降きけ













心髪乃報きとたしす杖いつとくかあ成て目付  
 可き小髪み入た名乃脇下うねと寝まき行し  
 腰ふるまきとるは足れ指まきかごて万あつそと  
 なぬそとまき人乃そく毎さか一也まき一まき打く  
 なく声鶴み似く蚊乃物も毛落る和と九度まきく  
 とつて一も其好いふ強も都き安まらめて種  
 名跡さへ中成そのうたへき形成みねは子書し  
 真子君の物いそまきまきやとよ其相一河津を  
 とこいし知れ声ぞり親しくと尋ねまき都乃  
 そ川に釣日山の色まき里とやまきまき茶のよと  
 川乃母





